

# 7月りんご生産情報



令和6年7月5日発行  
J A つがる弘前  
岩木地区営農係

見直し摘果は「強くしっかり」を心がけ適正着果量に仕上げましょう!

果実の肥大状況は平年を上回っておりますが、干ばつの影響により、肥大の進みは鈍化しています。仕上げ摘果が終了した園地では見落としや過着果の部分がないか見直し摘果を行いましょ。

7月に入り、暑い日が続いておりますので、こまめな休憩や水分補給を行うなど熱中症対策を行いましょ。

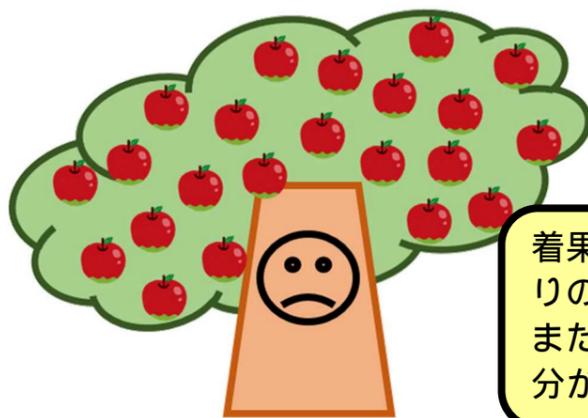
○肥大状況について(7月1日現在:単位cm)

地点	つがる		ジョナ		王林		ふじ	
	本年	昨年	本年	昨年	本年	昨年	本年	昨年
小沢	6.0	5.7	5.0	4.8	4.7	4.7	4.4	4.4
五代	5.4	5.7	-	-	4.9	4.9	4.8	5.0
百沢	5.1	4.9	4.9	4.5	4.4	4.8	4.3	4.2
東目屋	4.6	5.1	4.1	4.6	4.1	4.3	4.0	4.3
西目屋	4.6	4.4	4.6	4.4	-	-	4.4	3.9
農協平場平年値	4.6		4.6		4.2		4.0	

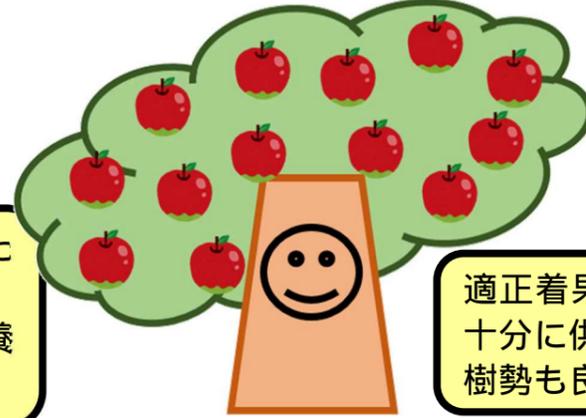
○見直し摘果について

7月は花芽形成の開始時期です。花芽形成は日照時間が長く、比較的涼しい気候であれば進みますが、近年、夏場に高温が続き、花芽形成に不利な環境へ遭遇することが多くなっています。そのような環境の中で着果量が多いと、花芽を作るための養分が十分に供給されず、さらに花芽形成へ悪影響が出てしまいます。そのため、見直し摘果をしっかりと行い、花芽形成に養分が行き渡るよう適正着果に仕上げましょ。

また、肥大が進むにつれ、間隔をあけて摘果したつものりんごが密着していたり、着果量が多かりんごの重みで枝が下がっています。見直し摘果を行いいんごの着果距離を適正に保ち、品質アップを目指ましょ。



着果量が多いと、りんご1個あたりの養分は少なく、品質が低下。また、樹体、花芽形成に十分な養分が供給されなくなります。



適正着果にすると、養分が十分に供給され、花芽形成、樹勢も良好になります。

○薬剤散布

今後は夏の病害(褐斑病、炭そ病、輪紋病)に対する防除になります。いずれも降雨に伴って感染しますので、散布予定日が雨の場合は降雨前散布を徹底ましょ。前回のりんご生産情報でお知らせしたとおり、昨年褐斑病の発生が多かった園地では遅くとも7月15日までに「オンリーワンFL2,000倍」を散布ましょ。

回数 (散布量)	散布時期	薬剤名及び調合順序 (剤型)	倍数	1,000 当り薬量	防除上の注意
9 (500) 7/5頃	7月初め	オキシンドー(水) アーデント(FL) カルマッチ	1,200倍 2,000倍 770倍	835g×1袋 250ml×2本 1.3kg×1袋	モモシンクイガの重点防除時期ですので、ピレスロイド剤(アーデント、サイハロン等)を使用し対策ましょ。  オンリーワンFL2,000倍散布時期(7/15まで)  ↓
10 (500) 7/19頃	7月半ば	オキシンドー(水) デリゲート(FL) コロマイト(乳) カルマッチ	1,200倍 10,000倍 1,000倍 770倍	835g×1袋 100g×1袋 500ml×2本 1.3kg×1袋	
11 (500) 8/2頃	7月末	ダイパワー(水) ダントツ(水溶)	1,000倍 4,000倍	1kg×1袋 250g×1本	

令和6年産りんご予約受付実施中です!

受付は7月19日(金)までとなりますので、1箱でも多い予約をよろしくお願いいたします。

